

#### 401 Rectilinear whole body scanner による <sup>67</sup>Ga 全身シンチグラム 2000 例の検討

油井 信春、木下 富士美、小坪 正木  
間宮 敏雄（千葉がん、核医）

1972年より1980年の8年間に千葉県がんセンターでは Rectilinear の全身スキャナーによって約 2000 例の<sup>67</sup>Ga 全身シンチグラフィを行っている。現在は全身カメラ装置が用いられているが<sup>67</sup>Ga シンチグラムは Rectilinear scanner を用いてもほとんど同等の画像が得られ、前後面同時撮像の利点もある。

悪性腫瘍の患者で未治療の原発巣 852 例について部位別の陽性率の検討を行ったが平均では約 75 %の陽性率であった。原発不明癌が 111 例あり、このうち約半数が剖検で原発巣を確認出来たが、<sup>67</sup>Ga シンチグラムで原発の異常を指摘し得たのは約 30 %であった。全身シンチグラムは転移巣や再発病巣の診断にも有用であった。

組織型では未分化癌や悪性リンパ腫で高い陽性率が得られた。扁平上皮癌と腺癌では、ほとんど差異を認めなかった。

#### 402 <sup>67</sup>Ga シンチグラム 1353 例の臨床的検討 弥富 晃一（市立川崎、放）鈴木 謙三（都立駒込、放）折井 弘武（都臨床研）

<sup>67</sup>Ga シンチグラムによる疾患別の有所見率を知る目的で、昭和54年1月1日から昭和56年12月31日までの3年間、都立駒込病院で行った1353例のシンチグラムについて調べた。

疑陽性としたものは陰性として数え全体の有所見率を計算すると62%であった。

有所見率が高かつたグループの中で悪性腫瘍は、肺癌91%、食道癌81%、へパトーム76%、悪性リンパ腫67%などであった。

悪性腫瘍で低かつたものは、骨及び軟部腫瘍22%、膵臓癌13%、眼窩内悪性腫瘍は6例全例が陰性であった。

非悪性腫瘍グループでは、術後化膿症が3例と症例は少なかつたが、全例陽性であり、この他肺線維症77%、サルコイドーシス85%などが上げられる。

低かつたものは、体重減少7%、不明熱22%などであった。原発不明癌も36例について検査が行われているが、転移を検出できた例は24例で不明であった原発部位を指摘できた例はなかつた。

#### 403 Ga-<sup>67</sup> シンチグラムの臨床上的有効性に 関する検討

朝倉 浩一、小野 慈、竹林 茂生、田之畑 一則、  
川島 博之、柚田 勝輝、野沢 武夫、氏家 盛通、  
松井 謙吾（横浜市大・放）

Ga-<sup>67</sup> は腫瘍親和性核種として、また炎症に集積することから現在広く利用されているが、シンチグラムが実際に臨床役に立っているか否かを検討した。シンチグラム所見と臨床的なその後の経過を検討し、シンチグラムの有効性を下記のごとく分類した。1) 非常に有効であり、治療法やその後の検査方法に新しい方向をもたらしたもの。…(+) 2) 有効であり新しい知見を得られたがそれが治療に直接結びつかなかつたもの、あるいは経過観察中の症例で陽性像は見られなかつたが、それが有効な情報を提供したもの。…(+) 3) 陽性像は得られたが、それまで判明していた知見以上の情報は得られず治療に寄与しなかつたもの…(±) 4) 病変が描記できないものや偽陽性を示したもの。…(-) 1981年1月～12月の348例の検討の結果、(+)-13%、(+)-27%、(±)-15%、(-)-45%であり、悪性リンパ腫、膿瘍の症例に有効率が高く、肺癌その他の癌に有効率が低かつた。検査施設による有効性の差についても検討する。

#### 404 <sup>67</sup>Ga 腫瘍シンチグラフィの臨床的評価 - 65 才以上の高齢者剖検例における検討 - 下原 康彰、丹野 宗彦、村木 俊雄、田淵 博己、 村田 啓、千葉 一夫、山田 英夫（都養育院、核放）

<sup>67</sup>Ga シンチグラフィは、腫瘍および限局性炎症巣の検出に広く用いられている。今回、我々は65才以上の高齢者における、<sup>67</sup>Gaの腫瘍シンチグラフィとしての有用性を検討する目的で剖検所見との対比を行なった。

対象は、S50年からS57年までの剖検例のうち生前に<sup>67</sup>Gaシンチグラフィを行なった110例で、悪性腫瘍のあった者では、腫瘍の局在、転移巣が明確なものである。

肺癌における陽性率は、56%と低く、組織型で分けて見ると、特に腺癌に低い傾向が認められた。又、腹部悪性腫瘍、特に消化管における陽性率は低く、スクリーニング検査としての有効性は、とばしいものと思われる。<sup>67</sup>Gaによる転移巣の描出は、困難で、肝転移のうち、巨大なもの、肺転移などにおいてのみ検出可能であった。陽性例、陰性例における、血液、生化学的検査所見に差異は見出すことはできなかった。

その他、<sup>67</sup>Gaシンチグラフィの、悪性腫瘍診断における役割について、臨床的に再検討を加えたので報告する。